

配偶者控除・配偶者特別控除の見直し

(担当：中井)

< 1. はじめに >

配偶者控除及び配偶者特別控除とは、個人の所得から一定金額を控除する制度をいいます。平成 29 年度税制改正では、納税者の所得金額に区分を設け、これらの所得金額に応じて控除額が逡減するよう改正されました。

< 2. 改正内容 >

(1) 配偶者控除の所得制限

合計所得金額が 1,000 万円を超える納税者は、配偶者控除が適用できなくなります。なお、配偶者特別控除は、従前どおり合計所得金額が 1,000 万円超の場合は適用できません。

(2) 控除額の見直し

① 配偶者控除

改正前は一定額であった控除額が、納税者の合計所得金額を 3 つの範囲 (900 万円以下、900 万円超 950 万円以下、950 万円超 1,000 万円以下) に区分し、この区分に応じて控除額が逡減するようになります。

② 配偶者特別控除

対象となる配偶者の合計所得金額が、「38 万円超 76 万円未満 (給与収入に換算すると 103 万円超 141 万円未満)」から「38 万円超 123 万円以下 (同 103 万円超 201 万円以下)」に拡大されます。

配偶者特別控除も配偶者控除と同様、納税者の合計所得金額を 3 つの範囲 (900 万円以下、900 万円超 950 万円以下、950 万円超 1,000 万円以下) に区分し、この区分に応じて控除額が逡減するようになります。

< 所得税の控除額 >

(単位:万円)

| 合計所得金額 (給与の収入金額) | | 納税者 | | | | | |
|---------------------|--------------|--------------|--------------------|----------------|------------------|------------------|----------|
| | | 超 | | 900 (1,120) | 950 (1,170) | 1,000 (1,220) | |
| | | 以下 | 900 (1,120) | 950 (1,170) | 1,000 (1,220) | | |
| 配偶者 | 超 | 以下 | | | | | |
| | | 38 (103) | 配偶者 控除額 (老人) | 38 (48) | 26 (32) | 13 (16) | 0 (0) |
| | 38 (103) | 85 (150) | 配偶者特別 控除額 | 38 | 26 | 13 | 0 |
| | 85 (150) | 90 (155) | | 36 | 24 | 12 | |
| | 90 (155) | 95 (160) | | 31 | 21 | 11 | |
| | 95 (160) | 100 (167) | | 26 | 18 | 9 | |
| | 100 (167) | 105 (175) | | 21 | 14 | 7 | |
| | 105 (175) | 110 (183) | | 16 | 11 | 6 | |
| | 110 (183) | 115 (190) | | 11 | 8 | 4 | |
| | 115 (190) | 120 (197) | | 6 | 4 | 2 | |
| | 120 (197) | 123 (201) | | 3 | 2 | 1 | |
| | 123 (201) | | | 0 | 0 | 0 | |

③ 適用時期

平成 30 年分以後の所得税について適用されます。

< 3. 源泉徴収事務への影響 >

配偶者が源泉控除対象配偶者(注)に該当しない場合 (= 配偶者控除又は配偶者特別控除の上限である 38 万円の控除を受けられない見込みがない場合) は、月々の源泉徴収税額の計算上、配偶者を扶養親族等に含めないこととなりますので、ご注意ください。

(注)納税者(合計所得金額が 900 万円以下のものに限る)の配偶者で、その納税者と生計を一にするもの(青色事業専従者等を除く)のうち、合計所得金額が 85 万円以下である者